

2022 年度監査部門監査報告書

監 事 高 尾 典 史
監 事 平 泉 憲 一
監 事 鈴 木 一 正
内部監査室部長 北 谷 仁 宏

1. はじめに

2022 年度は、長期計画 2030 に基づく第Ⅲ期中期経営戦略（2019 年度-2021 年度）の成果と課題を踏まえて、第Ⅳ期中期経営戦略（2022 年度-2027 年度）を推進している最中にある。総じていえば、学院内外の環境を踏まえた事業展開となった年度であった。

監査部門では、高尾常勤監事、平泉監事、鈴木監事の 3 名が協力し、確定した案件のみを監査するのではなく、進行中の案件も監査する「プロアクティブ監査」の手法を用いて、積極的な監査を展開した。特に、監事が課題と認識することについては、監査意見書等でリスク低減のための意見を表明している。併せて、監事、監査法人、内部監査室の 3 者が牽制しつつ夫々が協力して監査に取り組む「チーム監査」を展開することで質の高い監査を実施することができた。

2. 監事監査について

学院が長期計画 2030 の諸施策を積極的に展開しており、次の諸点において不測の事態が発生する可能性が高く、これらを巡るリスクの発生を防止することを監査方針の主軸とし、ガバナンス体制の確立を目指し監事監査を行った。

- ① 長期計画 2030 実現に向けた諸施策の推進
- ② 現在進行中の教学改革の展開
- ③ リスク管理上看過できない事象が発生した際の学院の対応

(1) 監査概要

- ① 理事会、評議員会に 3 監事が出席し、審議・報告内容に対して意見を述べると共に、理事の業務執行状況を確認した。
- ② 常任理事会に常勤監事が出席し、議事録を閲覧しつつ、審議・報告内容のモニタリングを実施した。
- ③ 監事会を 10 回開催し、必要に応じて内部監査室から業務および会計の報告等を受け、監事同士の意見交換と情報共有を行った。
- ④ 三様監査意見交換会を 4 回開催し、監事・監査法人・内部監査室の連携強化及び情報共有を図った。
- ⑤ 監査協議会を 4 回開催し、監事、監査法人、内部監査室、法人執行部、学院事務管理職並びに各校園長とも意見交換、情報交換を行った。
- ⑥ 教学監査として、校長・副学長等へヒアリングを実施した。
- ⑦ 常勤監事の理事長、常務理事との日常的な意見交換を行った。
- ⑧ 内部監査室部長との日常的意見交換と情報共有を行った。
- ⑨ 理事会に監事監査意見書を提出した。

(2) 監査結果

監事 3 名の共通意見として、これまでのところ業務並びに財産の状況に関して、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は確認されていない。

3. 内部監査について

内部監査は、内部統制の有効性を確認しつつ部門是である「学院の価値創生のための継続的な改革・改善を支援し組織の発展に寄与する」ことを踏まえ監査を実施している。

また、内部監査室の職員は、理事会、評議員会、常任理事会や大学教育研究評議会などの主要会議に陪席し、学院の方向性を常に把握しながら、監事や監査法人とも連携しつつ「プロアクティブ監査」、「チーム監査」を念頭に置き監査業務を展開している。

2022 年度は、第Ⅳ期中期経営戦略・長期計画 2030 関連の業務執行に関する手続状況に関してモニタリングを行いつつ、以下の監査を実施したところ、重大な問題は発見されなかった。

(1) 業務監査

- ①部門別監査（(株) オーティーエム、小学校事務室、教務課）
- ②教学監査（研究所関連、新しい授業形態における管理体制、キャンパス移転の学内体制）

(2) テーマ別監査

- ①科学研究費助成事業（厚労科研費含む）
- ②システム監査(学院全体)
- ③DX 補助金
- ④2022 年度安全保障輸出管理

(3) 臨時監査

- ①周辺会計（校友課）

(4) モニタリング

(5) フォローアップ監査

以 上